（郵便報知新聞紙第二千三百八十八號）　（本號六面）　明治二十二年八月二十一日　（定價二錢）

時事新報

時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

第二千三百八十八號
明治廿二年八月廿一日　水曜日
舊暦巳丑七月廿五日　（己巳）
月出午前六時五十五分　入午後六時二十二分
月入午後二時零四十四分
潮干午前零時六分　午後零時四十一分
（西暦一千八百八十九年）

時事新報

西尊東卑（昨日の續）

高橋義雄

美術的の文明に於ては日本は世界の先進國にして此一點に至りては彼の非西尊東卑説も聊か遠慮に及はざる次第なれども今の日本は開國日浅く國民年齢の老少に國りて教育の新舊、思想の急漸、固より相同しきを得ず古流新進意氣相適せず各種の原素各樣の思想雜駁混沌たる世の中あれば同じ筋道を行く人にても考ふる所は別々ふして王政復古に祭政一途説が飛出し假名の會ふ侍る言葉が現はれて演劇改良に正史論が出づる等の奇例もあり總じて誤解心得違ひの多き折柄あれば所謂非西尊東卑説も例の通り極端ふ走りて暗に攘夷風の空氣を釀し尊尺短卑細比較するの分別もおく夢我霧中ふ増長して國粋保存の通り過ぎを生ずるの恐なきに非ず前條ふも記述せし如く今の西洋の文明は有形實質の快適を發達せんとして其體裁を成したるものなれば浮華想像的の趣味に富まざると勿論なれども實形實質總べて數理に根據して物理天然の約束に從ひ物理の學進んで蒸汽電氣の働を知り之を人事に適用すれば天然の理法欺く可らず其理法に從へば何人にても之を驅使して其効用を收むることを得べし地質學に地底を測りて天文學ふ天體を詳ふし航海學に船の運動を制して簿記學ふ帳面の精確を保ち法學盛んふして生命財產自から安く醫學開けて起死回生の恩波を及ぼすが如き其他博物地理算數、都て有形の實學ふして其精確緻密なるは申すに及はず悉く天然の理法ふ因り又その約束に從はざるものなし即ち日新文明學の所長とする所にして日本が近來進歩しさり又大ふ開化したりおと稱するも實は我が先聖諸氏が刻苦專心斯學を講き又ふの利器を利用するの道を講して之を我が人事の實際に施すふとを得たるまでの事ふして若しも此有形學を蔑視するふと彼れ那人の如くありせば醫術は則ち草根木皮、天文は則ち天動地靜、陰陽五行の妄誕に迷ふて世事萬端人後に落ち程おく第二十四世紀に移らんとする今日、廟堂士君子の間に於て鐵道布設に反對する者あるが如き奇相を存したるふとならん我が師友先聖諸氏が昔年萬方多難の際、西洋文明を輸入せんとして其全力を傾けたるは專に此有形實學の點にして蒸汽船車電氣諸機關凡そ人生實質の便利快適を增長するものは悉く斯學に原因せざるものなしと云ふも可ならん即ち今の世の中に生れて文明の進路ふ長驅せんとするものは始終一心之を尊重す可き善ふして此一點に蹈み込みて漫ふ非西尊東卑説を語るは我輩の徒に取らざる所なり或は有形實學の點を離れて日常人事交際品行德義等に渉れば東西古來の習俗もありて其外見に於ては双方相劃みて相互に長短する程の事にても其内情に立ち入れば德義上酷評す可らざる向きも多く日本の善美不品行、西洋の腐敗爲利等その實際の如何に由り世上の人情に訴へて德義上責任の輕重もあり又西洋の國に由り又その種族の階級に由りて或る一部分の醜行は見るに忍びざる程の場合もあれども假りに英國中等社會の品行ふを標準として見れば其中凜然として敬重す可きもの少ふか らず或る人の説ふ日本の中以上の家にては賓客を家内ふ入れて家族同樣ふ同居するとを許さゞれども英國の家族は之を入るゝと容易ふ是れ其家屋構造等の樣異あるが爲めならんと雖も彼の國夫婦の交際談話は朝暮他人の面前に在りて其見聞を恐れざれども日本家内の現狀ふては傍聽人の同居を憚るの情實も多くして賓客の同居を許さゞるの意味もあらんと云ふ亦以て彼我家内の品行を卜するに足らんか或は商賈取引上の信用等ふ付き日本と西洋とを比較せんか多年の習慣とは申しながら我が商人の彼れふ及はざると萬々ふして現に今日の實際に於て金錢の授受には違約多く手形を用ふるの區域は甚だ狹く銀行の役員が金錢上の非難を蒙りて相場所の仲買人が毎度警察官の手を煩はす等其不信用の一端として見る可きなり此他商工實業の組織慣例等委細の部分に立ち入らば我れの彼れに及はざる者極めて多く開國外交彼れと相接すると頻繁なるの今日、彼の長を長として之れに感服し亦隨て之を採用するは臧に事の當然にして斯る部分に非西尊東卑説は全く無用なるが如し左れども人心は偏し易く今の或る經世家ふと の中ふは洋癖論者が西洋に癖する程に己れ自から日本に對して書癖が必死の病人に向て御養生次第云々の甘言を弄び敎師が不肖の子供に對して今にも大先生に及ふべしとて漫ふ方便餤を弄ぶと一般の説を爲すものもなきふ非ず生理遺傳の理を解せざるものは斯かる方便餤に滿足するならんと雖ども苟も書を讀み理を解して事物の美惡を判斷するの明あらんものは一時の方便餤を聞て自から欺き自から慰むるに忍びざるあり左れば東西相比較し共長短の在る所を察し彼れの所長は之を尊ひ又之を採納して結局之を日本化せしひるの覺悟ふ專一ならんのみ

（以下次號）

雜報

○第二回奥羽聯合獸醫會、は今二十一日より岩手縣盛岡に於て開會の筈ふりと

○病院の改築　陸軍省ふては今度麴町區竹町に設置しある東京衛戍病院を改築するよし

○水道改良起工の期　市區改正委員會ふ於て水道改良の事は急起工する事に決したる由にて本年十一月開く市會の議に附し決議の上は來る二十三年度を以て起工する筈にて費用ふ充る爲め公債を募るの方法を始め一切の事夫々内決し居れりと

○水雷火船　神戸小野濱造船所に於て新造中の水雷火船十二隻の内二隻は既ふ竣工したるにより鹿嶋縣下呉鎮守府所屬と定めたりと

○日本美術協會　同會にては來る二十三年の春季即ち四月より開設すべき同會の美術展覽會は恰も上野の内國勸業博覽會と同時なれは會員も大抵内國博覽會の方へも出品すれは右展覽會開設は到底無益ふりとて見合す事に決し唯だ來年の同會は古器物展覽會のみを開く事ふなるへしと云へり

○硅白書捧呈の決議　福嶋縣下菊多、磐城、磐前、東西兩白河、岩瀬、安積七郡の有志者にも改正條約の決行を硅白せんと過日來協議を遂げし處愈々硅白するふとに決し且場合ふ依り一同打揃ふて總代を上京せしひる等の手筈も相談ありしと

○大坂四區長書記の給料　大坂の四區長及び區書記の給料額は去る十六日の大坂市會ふてはいよ〳〵決定せし由なるが區長は一級年俸千圓より七級同五百圓迄の七等に分ち、區書記は一級月俸四十圓より九級同八圓までの九等なりといふ

○智恩院の財產管立　京師來る淨土宗の本山智恩院が第六十一國立銀行より借入れたる九萬三千餘圓の負債訴訟は既に同院の敗訴となり去十三日より下京區書記立會の上本堂莊嚴向を除く外は總て財產の付立ふ着手し庫裏、山門、唐門等は既ふ其手續を畢りしがおか〳〵黑數多くして迚も一週間位ふは付立を終る能はざるべしとなり

○道路改修工事の困難　福井滋賀兩縣共同して工事に着手したる若狹街道の改修工事は段々切り下げたる處近時悲質の黑土出で來りたる趣滋賀縣土木課出張員より縣廳に報告ありしかば縣廳ふては兼て岡山縣勝山に於る道路開鑿工事中黑土の爲めに失敗を取りたるふとを聞き及べるのみならず大坂土木監督署の田邊巡視長より若し土工中黑土を發見したらんふは其工事を中止して早速協議すべき旨前以て注意を受け居たる事あれば輒ち土木課員を大坂ふ派遣して田邊氏に聞き合せし處土質岡山縣のものと同一なれども其嵩少ければ脚壁工ふ水扳工を施ふし置きて道路の保存十分なるべしと取調をなしたるも元來該工事は兩縣共に漸くのふとにて縣會の可決を經、着手したる程のものなれば今日斯かる次第にて臨時費を要する抔は或は人の好まざる嫌もなきふあらざれど去迚今更打棄て置く譯にも行かず退引ならぬ場合なれば臨時縣會を開いて諮問するふ外なしと目下滋賀縣にては其詮議中なりといふ

○關西鐵道會社　ふては津、山田間鐵道布設の事及び津、河原田間の支線を變更して亀山、津間とおしたる件に就き本日常議員會を開くよし

○紀泉鐵道　は近々本免狀下附の出願をなす趣あるが其鐵道布設工事は着手の日より向ふ十八箇月間に竣成の豫算あれど好し之より後るゝも二年には出でざるべしと云へり

○水戸鐵道の汽罐車　同鐵道ふて是迄使用し居たる汽罐車は十二車挽の處近來貨物乘客等の增加せるため去る十五日より十八車挽火形汽罐車の使用を始めしと のふとおるが尙は東海道の各漁業地より輸出する鮮魚類の荷物は時節柄最も時を爭ふものなれど或は第一列車に後れて二列車を待つ間には腐敗を來たし荷主の不利益を釀すふともあるべしとの意念より去る十六日ふり魚荷搭載の時間を豫定して第一列車則ち午前六時二十五分に發すべき貨車へ搭載する魚荷の受稱は同五時五十五分限第二列車則ち午前十時二十分限第三列車則ち午後二時十五分限の分は同一時五十分限りとし此時間を經過して到着の魚荷は其搭載方を次回發の列車へ廻す事ふ仕りしと

○車夫の轉業　潮東鐵道の全通以來沿道の人力車夫は頗に乘客を減じて活は鐵道工夫等に轉業の見ゆ

○横濱石油の商況　れも見送りの姿にしず依然下足ふ運ぶの柄近日着すべき六十内商は安直のみ唱へ一昨日百七十八番ふ一キ印一番二番取合て二番三番トリ印一底意强からざる方な迄半箇月間ふ横濱ふ メ六千三百十二箱、ホーキ十一萬四千六百七十六箱、鳥印二百二十八箱合計三十八千六十二箱合計六石川石油倉庫の在荷萬七千七百七十四箱

○縣會議員殿打被告事件　ふ於て故人投票の件創傷したる被告事件日其の宣告あり被告憤正三は同一月同廉たる由因ふ記す三人氏名の頭字を染め貫宣告を受けたる趣尙と盛岡よりの通信ふ

米國の人情風

第二　金滿家

米國内の金滿家を擧如し　人名

セー、グード
ダヴリュー　マッケー
シー　ヴァンダービー
ビー　ジョーンス
セー　アストル
チー　スチュアート
ジー　ペンチット

此等は金滿家中の金從事し斯る豪富を致聞ふ高き人々を擧げばざるふと遠し即ちの財產と稱しシューンバーランド公は二千萬弗と稱す佛もあらず而して始めあるのみふして之を器械を商ふて漸く生ひ前に記するが如く株式取引所を我物と鮮を來し他の相場師得べからず恰も蟻歸は十錢の金を以てモむるに異ならず氏の儲足するものゝみなあるものも田舍ふあはゝく其一斑を擧ぐ